

15 人 間

「人間」領域

1 ねらい

人と人との関わりを通して、自分自身を見つめ、人間としてともによりよく生きようとする子どもを育てる。

低学年	身近な人たちとの関わりの中で、自分のよさに気づき、自分の思いや考えを表現しようとする。
中学年	学校や地域など、身近な集団の中で、お互いのよさを認め、自分らしさを発揮しようとする。
高学年	多様な人々との関わりの中で、身近なところから自分のよさを伸ばしていこうとする。

2 学習を構成する上での基本的な考え方

(1) 学習内容の設定にあたって

子どもたちのおかれている状況や将来の社会変化を考慮したとき、「人間」領域で取り組む学習内容は多岐にわたる。本校では、全体を「自分自身を見つめる場」と「他者との関わりの中で学ぶ場」の2つの側面からとらえ、学習内容を設定した。

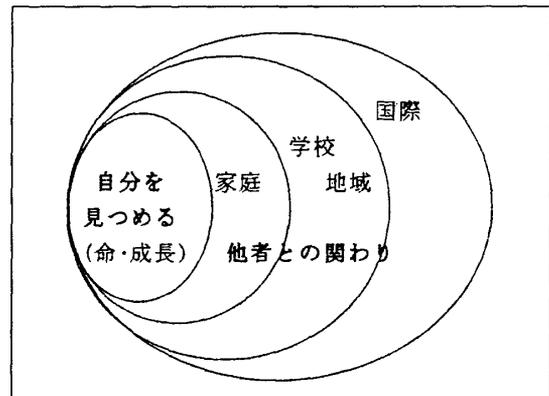
「自分自身を見つめる場」では、命の尊厳や人間の成長そのものについてさまざまな学習が求められる。また「他者との関わりの中で学ぶ場」では、子どもの基盤である「家庭」から、友人・学校・地域といった「身近な場」、さらには「国際的な視野」へと広がる幅のある学習活動が考えられる。

そこで、「人間」領域では、まず本校の子どもたちの実態からスタートした。本校は校区が広いため、自分の身近な地域の友達と一緒に遊んだり、活動したりする機会が少なくなりがちである。また、遊び方を見ても、ゲーム機を使うひとり遊びが多く、集団で遊ぶ姿があまり見られなくなってきている。しかし、放課後少しでも残って一緒に遊ぼうと誘い合う姿から、友達と触れ合いたい、関わり合いたいという気持ちが強く伝わってくる。

このような子どもたちの実態をもとに、昨年度から身近な人との関わりの中で学ぶことのできる学習を考えてきた。この関わり合いの中で、自分自身を見つめ、命の尊厳を感じ、生きている実感や成長の喜びを味わうことができるようにしていきたいと考えている。

(2) 学習活動で大切にしたいこと

学習の中で、子ども達が、幅広い年齢層の人々や、さまざまな興味の持ち方・考え方・思いなどに触れ、その生き方・生き様を感じ取ることができるような場を設定していきたい。またそこで、自分自身の自立・成長を自ら実感できるようにしていきたい。そのためには、お互いの思いを出し



合い、自分らしさが発揮できる、できるだけ自然な関わりが必要である。そこで、「遊び」の要素を取り入れた活動を重視してきた。

昨年度は、みんなで遊ぶ楽しさや創り上げる楽しさを味わい、活動に没頭する中で自分を出し合い、ぶつかり合い、認め合う姿が見られた。また、活動を繰り返すうちに、自分自身を振り返り、次の活動に生かそうとする姿も見られるようになった。本年度も、振り返りを大切にしながら、次のような活動に取り組んでいきたい。

	1年 (10)	2年 (10)
ねらい	○身近な人と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○6年生と一緒に学び、生活することの楽しさを味わう。	○身近な人と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
活動事例	「いっしょにあそぼう」 「6ねんせいといっしょ」 ・あそびをおしえ合おう。 ・あそびをかんがえよう。 ・おたのしみかいをしよう。	「いっしょにあそぼう」 ・あそびをおしえよう。 ・あそびをおしえてもらおう。 ・あそびをかんがえよう。 ・あそびはっぴょう会をしよう。
	3年 (15)	4年 (15)
ねらい	○共通の目的に向かう活動を通して、お互いの思いに気づき、共によりよいものを創り上げていこうとする。	○みんなで自分たちの成長を祝う活動を通して、自分の姿をふりかえるとともに、将来への夢を広げる。 ○お互いのよさを認め、成長を喜び合う。
活動事例	「ぼくとわたしのゆめの遊園地をつくらう」 ・他学年、他クラス ・保護者（参観／PTCなど） ・地域	「1／2成人式を祝おう」 ・保護者からの一言 ・写真展 ・保護者への感謝状 ・みんなから一言 ・「10年後のわたしへ」手紙
	5年 (10)	6年 (10)
ねらい	○地域で活動する人たちとのふれあいを通して、より豊かに生きようとする姿勢に気づくことができるようにする。	○1年生と共に生活することを通して、自分をふりかえり自分の成長に気づくことができるようにする。 ○卒業後の自分の生活に見通しをもつことができるようにする。
活動事例	「公民館活動に参加しよう」 ・仁保公民館の活動 ・各々の地域の公民館活動 ・PTA同好会 ・子ども会 ・ボランティア活動	「1年生とくらそう」 ・1年生と暮らしの計画を立てる。 ・1年生の先生になろう。 「中学校に行こう」 ・東雲中体験入学や行事への参加。

学校などを中心とした日常的な取り組み
特活・学活・道徳・教科の中で

以下のページには、本年度の取り組みの中から「遊び」を通して友達や保護者とどのように関わりをもち、関わりを深めていったのか、また、異年齢の子ども達が活動に没頭し、その楽しさを味わうことができる場をどのように作っていったのか、について実践例をあげる。